

第3回観光戦略策定委員会会議録

【日時】2023年2月17日(金)13:30～

【場所】嬉野市役所嬉野庁舎3-1会議室

【出席者】

- ・委員：出口委員(委員長)
山田委員(副委員長)(オンライン)
山口委員、北川委員、中山委員、副島委員、山崎委員(オンライン)、森委員、
宮崎委員、大久保委員、松下委員、小原委員、橋爪委員、辻本委員
- ・市長
- ・産業振興部長
- ・観光戦略統括監
- ・観光商工課長、副課長、主査
- ・アイデアパートナーズ(株)

【市長あいさつ】

嬉野市が観光戦略を策定する背景には、社会的な変化の中でどのような観光地としての展望を描いていこうかという中で、お力添えを賜るということもある。私は、観光産業を幅広くイノベーションを起こすには、多様な目線が必要だと考える。かつては男性向きの歓楽街で利益を上げていたが、そのような状況はなくなり、家族連れや女性の目線等これまで抜け落ちていたものを拾い集めて、総力戦で新しい未来を切り開いていく必要があるという観点から、今般ヒアリングの対象を広げた。

シビックプライドが低いことが残念。この町は良いものを持っているにも関わらず、何もないという人がいる。自分の中でこの町のために何かしようという前向きな気持ちも持ってほしい。観光振興を通じて嬉野市民を豊かにする。「豊かにする」というには心の豊かさもある。嬉野は素晴らしいところだから一度来ないと絶対に損をするということを言っただけの取り組みにしていきたいと思う。皆さんの気付きや想いをこの計画の中にぶつけて行ってほしい。

(主な意見)

(KPIの設定・基本的な考え方)

【委員A】

- 基本施策の実施対象者に観光協会の記載があるが、事業実施に当たり発生する予算について、確保できるのか市長に尋ねたい。
 - 一(市長)予算的な裏付けは必要
 - 一その都度、企画した予算書を提出して検討していただくということか。

一(市長)事業に対しての必要経費は市民理解を得られる範囲の投資をする。入湯税の超過等を検討し財源の確保をしていく。

【委員 B】

●1人あたりの消費単価について10年後500円アップとなっているが、10年前の消費額の数値はどのようなデータなのか。

一消費額の算定は宿泊者数等一定の数値を基に算定をしている。その点では今後単価についてはアンケート実施等で単価を見据えていく。データの出し方については10年前のデータが手元にないので、アンケート実施等で算出する

一(委員 B)10年前の消費単価は7,500円程だった。

一観光消費額が市民の皆さんの実感よりかなり高めに出ているかもしれない

【委員 C】

●インバウンド客の層は、中国・韓国からの格安旅行から、欧米の富裕層になるよう、この10年で変わってほしい。塩田津も大事に考えているが嬉野市の方が観光人口・観光からの恩恵が多い。それを認識しながら取り組んでいかないといけない。以前、定住人口経済効果、観光消費効果について調査したところ、定住人口が観光人口の200倍ほどあった。かなり層が変わっている。

【委員 D】

●今後どのようにデータを収集していくのか、城崎温泉では7割の旅館がDX化で消費単価や1部屋の単価等が出るようになった。システムを入れて数値を具体的に見ていく必要がある。宿泊客と日帰り客を合わせて観光客数としているが分けて考える必要があるのでは。日帰り客はイベント関係での来訪も含まれており一緒にするものではないと考える。

●富裕層への施策も薄いように思う。京都のホテルでもインバウンド富裕層に完全に切り替えているところもあるので、嬉野でもティーツーリズム等のコンテンツを作っていく目標を入れても良いと思う。市民が喜ぶことと外貨を稼ぐ動きの両立が大事。観光客数を伸ばすというよりかは、単価上げを入れたほうが良い。

一伊万里では一泊5万円(2名)の高級宿もある。

【委員 E】

●市の方針がどこに向かっていて、どのような嬉野の観光にしていきたい、ということをはっきり言っていないと、そこに向かっていけない。

●現在の稼働率がどのようになっているか。目標金額はわかるが、旅館・施設の受け入れ態勢以上に来て受け入れられない。嬉野に泊れなかった、嬉野ではできないことがあった、といったように、もう少し細分化したデータを知りたい。稼働率が低い季節にこのような取り組みをする等の嬉野に合った方法を考えてほしい。

【委員 F】

●会場の声が聞こえなかったなので、ほかの話題になるかもしれないが、嬉野市の観光地に対しての理解を地元の皆さんに求めるという観点から事例を紹介したい。

富山県氷見市の観光に関するケーブル TV で放送する番組(サンデーひみ)は氷見市の観光政策が市民に伝わる良いコンテンツになっている。

新潟県※(こめじるし)プロジェクトは、新潟県民が地元を自慢することが出来るように地元の良さを SNS で発信している。自慢できることが県内の住民で共有できるようになった。

嬉野市が観光地として伸びていくためには、地元の人々の深い理解やアクションがあっても良いのでは。

●暮らし観光について、人材不足に悩む旅館の1つの希望になるのではと考える。観光客誘客だけでなく、移住の促進や雇用も生まれてくる。

【委員 G】

●将来像に関しては観光地としてどうあるべきか、というよりも総合戦略等であるべき姿を議論されている。上位計画の中で位置づけたものをしっかり落とし込んだほうが良い。町のビジョンといっても様々な方がいるので、みんなが納得するものにすればするほど曖昧なものになりがち。上位計画を踏まえて観光計画として尖ることは良いと考える。

●消費単価の詳しい数値については嬉野市役所の方で調べ切れていないか、そもそもの数値が無いので、今後調べてもらえれば良いこと。消費額は出ているが、人口減少分のみなので、本来経済施策として嬉野市が稼がないといけないう額なのかどうか。本来なら産業連関表は自らでデータを取り自前で作らないと嬉野市の売上がわからない。産業連関表を作れば市内外の取引がわかるので、嬉野市が黒字か赤字かがわかる。作成に当たっては1000万ほど外部に支払わないとできないが、せめて5年に1回は作ったほうが良い。観光施策だけでなく、町全体の経済施策に必要な物なので、やって頂ければと考える。

●顧客満足度と共に住民満足度という指標を置き、暮らし観光として頂ければと思う。

●今回は仮説でしかないものが多いので、考察して調査し、より精度の高い数値目標を持つことが大事。

【委員 H】

●観光消費額の目標は、外的要因を踏まえたほうが良いのではと思う。佐賀市内でのビッグイベント来場者が鳥栖市や福岡に流れるのではなく、嬉野へと誘客する取り組みの中で、年を追うごとにサンライズパークの役割を高めることも考えていただきたい。

【委員 I】

- 観光戦略の中で愛着度の数値化をしているが、市長が仰った「嬉野市は何も無い」と市民がいうという話と比べて、愛着度 79.7%という数値はギャップを感じる。数値を積み上げていくのではなく、改めて定期的に市民アンケートの実施をすると数値が変わってくるのではないか。
- 消費額について、高付加価値化を進めていけば自ずと単価は上がっていくので、もう少し高い数字を入れても良いと思う。

【委員 J】

- 観光の流れの中で、飲食面で観光客は単価を抑えようとする。飲食の単価を上げないという話を今している。商店街の料飲店組合では駐車場がないから日中の営業ができないという課題があるので、組合で検討している。

【委員 K】

- 顧客単価について、コロナが終息に向かっており、インバウンドは戻ってきた中で、イベント開催は異業種を巻き込んでやっていくことが大事だと思う。そして顧客単価を上げていきたいとみんなで考えている。駐車場問題、温泉駅からアクセス問題が大きな課題として残っている。

【委員 L】

- 市民愛着度を上げる方法について、どのようにすれば愛着度を上げるのか。
-総合計画の中で市としての取り組みを通じて、愛着度を上げていく。

【委員 M】

- これまでの議論を踏まえて意見(このあと、途中退席するため)
進めながらどんどん良くしていかないといけないので、継続した議論や計画も途中直しをすることがあるかもしれないが、何のための計画なのか位置づけをしっかりとする必要がある。様々な測り方があるので、嬉野市に合った調べ方が必要。社会の豊かさという方向性で考えていただければ、

【委員 N】

- 子育て世代の環境も 10 年間で変化があるので、今回決まったものをその都度見直したり、愛着度の測り直し等で市民の声を聞いたりと密にやっていくことが大切だと感じる。
- 現状の把握も大事。観光協会のホームページを拝見した際に、以前よりいろんな機能ができていて楽しく拝見できた。「キッズ」というところにみゆき公園が追加出来たら良い。
- 暮らし観光も簡単に表現されていて見やすかった。地元の人しか知らない情報を中心に載せているような印象。それを見て町に出てみるきっかけになるのかなと思う。

●嬉野市のラインは、コロナ情報以外には、あまり情報が来ない。観光協会のラインは自分に必要な情報を見ることが出来るので、嬉野公式ラインの運用も検討していただきたい

●子育て世代の安心できるまちづくりについては、駐車場、トイレ等は気にする人が多いので、今後具体的な施策の中に入れていただければ、利用しやすいまちになると思う。

(体系図、基本施策について)

【委員 E】

●嬉野市民がどのように進めたいのかを示さないと議論ができない。大まかな概念があればそれに対していろんな意見が出るのでは。

ー(市長)39 ページ以降に具体的な施策を記載。皆さんの関係するところに落とし込んでいただき、今後どうつなげていくのかを考えてほしい。個別のアクションに繋げていくところは、各事業者の役割だと思う。具体的な施策の中から拾い上げてご意見いただければ、深まる議論もあるのではと思う。

-(嬉野市)観光戦略をわかりやすいように修正することも必要。

【市長】

●ビジョンのわかりやすさも大事だと考え、観光戦略を策定する際に雲仙市を参考にした。雲仙は、10年後の行動指針が絵で表現されており、わかりやすかった。嬉野に来ないと味わえないことなど、唯一無二を打ち出してほしい。

●補助金で様々な取り組みを応援しているが、行政がタッチしなくても前に進むような仕組みも大事だと思う。

(今後のスケジュール)

・第3回委員会資料の観光戦略案を読み込んだうえで委員からの意見を募りその後、パブリックコメントを求める

第4回観光戦略策定委員会：3/22（水）13:30～@嬉野市役所嬉野庁舎